

現在の研究開発課題の概要（平成30年度）

研究体系	研究課題・事業名	研究等の概要
1. 持続可能な林業経営のための技術開発	コンテナ苗の育苗期間短縮技術の開発	一般的な播種時期よりも早い時期にセルトレイへ播種し、温室で加温育苗した稚苗を春にコンテナへ移植することにより、スギやクロマツのコンテナ苗の育苗期間を短縮する技術を開発する。
	低コスト再造林に資するコンテナ苗の活用に関する調査と普及	一貫作業システムなどの低コスト再造林に資するコンテナ苗の生産効率及び現地植栽後の活着率や成長量等に関する調査を行い、コンテナ苗の普及促進を図る。
	スギ雄花着花特性検査の高度化事業	現在20年以上の期間がかかっているスギ花粉症対策品種の開発期間を短縮するため、若齢個体へのジベレリン処理による雄花着花特性から自然状態での雄花着花特性を高精度に検査する手法を確立する。【中核機関：林木育種センター】
	優良種苗確保事業	マツ材線虫病に抵抗性のあるマツ及び花粉の少ないスギ・ヒノキの優良種子を安定的に供給するため、優良系統の選抜や病虫害防除等により採種園の適切な運用を図る。
	コンテナ苗の生産に係る技術改良試験（種苗生産体制整備事業の一部）	コンテナ苗生産者が生産現場で抱えている技術的課題を解決し、苗木生産の安定化と得苗率の向上を図るため、生産者と共同で技術の改良に取り組む。
	スギ特定母樹採種園産種子による苗木の成長試験	特定母樹に指定されたスギ12系統の採種園産の自然交配種子から苗木を育成し、成長特性を調査するとともに、従来の採種園産の苗木との比較検証を行う。
2. 森林の持つ公益的機能の強化に資する森林復旧等の技術開発	海岸林松くい虫被害地における広葉樹等導入技術に関する試験研究事業	松くい虫による大規模被害地における広葉樹等導入手法について、植栽した苗木の生育状況の調査、植栽地の汀線からの距離や土壌条件等の検証、広葉樹等の植栽試験等により、本県の実環境条件に適した広葉樹等の導入技術を確立する。
	カシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害防止に関する調査・普及	ナラ枯れ被害は隣接する福島県で被害報告があり、近い将来、県内の被害拡大が懸念される。ナラ枯れ被害の早期発見、早期防除に役立てるため、ナラ枯れ被害が発生する前に、その生息状況を把握する。
	マツノマダラカミキリ発生予察調査（海岸防災林機能強化事業の一部）	マツ材線虫病によって枯れたマツ材内のマツノマダラカミキリの虫態別の虫数を調査し、幼虫の発育状況及び気象条件との相互関係から、成虫の発生期を予測する。
3. きのご等特用林産物の栽培技術開発	日本の漆文化を継承する国産漆の増産、改質・利用技術の開発	シグナル物質等を用いて開発された増産技術を県内ウルシ林に適用し、ウルシ生産潜在量等に関するデータベースを作成する。【中核機関：森林総合研究所】
	ニオウシメジの安定生産技術及び菌株保存技術の開発に関する試験研究事業	ニオウシメジの温度特性（増殖温度、生存可能温度）を解明し、質の高いきのごを安定生産できる栽培技術や菌株の保存技術を開発する。
	高級菌根性きのごの栽培技術の開発	マツタケ菌根苗を滅菌土壌を入れた植木鉢に、取り木苗などと共に寄せ植えし、シロ発達への効果を解明する。【中核機関：森林総合研究所】
	原木栽培きのご類の多品目栽培化に関する研究	収穫時期の異なることが見込まれるムキタケ、アラゲキクラゲ、チャナメツムタケ、ウスヒラタケについて、原木栽培技術を開発する。また、セシウム汚染に対する安全・安心な技術についても検討する。
	春マイタケの薄型原木露地栽培技術及びニオウシメジのプランター栽培技術の改良と普及	春マイタケ栽培に適した原木の厚さ及び伏せ込み方法、ニオウシメジのプランター伏せ込み技術を開発し、早期普及を図る。
(2,3共通) 放射性物質対策	放射能汚染地域におけるシイタケ原木林の利用再開・再生技術の開発	伐採、栽培現場における原木・ほだ木の選定・選抜技術を開発するとともに、カリウム等施用による原木生産林の再生手法を確立する。【中核機関：森林総合研究所】